2023　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	小児看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	10 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	203,202
担 当 教 員	徳田　薫	実務経験とその関連資格	看護師 卒業後、淀川キリスト教病院小児病棟で勤務、その後、病院経験を経て、CRC、看護教員12年経験			

《科目目標》

科目目標:
①子どもを発達していく存在としてとらえ、子どもが社会の中で健やかに成長・発達を遂げる権利を理解する。
②子どもと家族の健康な生活への支援のための基礎的知識を理解する。
③変化する社会の中で子どもをめぐる問題や健康障害のある子どもの看護、健康レベル別の看護を理解する。

《成績評価の方法と基準》

【評価方法】終講試験(90%)　課題レポート(10%)
【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満

《使用教材(教科書)及び参考図書》

ナーシンググラフィカ　小児看護学①小児の発達と看護、中野綾美編、メディカ出版
【参考書】
ナーシンググラフィカ　小児看護学②看護技術、中野綾美編、メディカ出版
ナーシンググラフィカ　小児看護学③小児の疾患と看護、中村友彦編、メディカ出版

《授業外における学習方法》

1)教科書を事前に読み、子どもに対してのイメージを深めて臨む。
2)課題の実施、教科書を中心にしっかり調べ、学習して臨む。
3)学習した内容を毎回、復習すること

《履修に当たっての留意点》

1)成人、老年に引き続き、小児の成長発達を学ぶ中で、人の一生を点ではなく線(道)としてとらえましょう。
2)授業での課題は点数化するので提出期日をしっかり守りましょう。
3)意見交換やグループワークなど活発に自分の思いや考えを発表してください。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 子どもの病気の理解について発達の特徴と関連させ、影響や対応について理解する 2. 病気や入院に伴う子どもと家族への看護について理解する	教科書p.178～193 参考資料	動画を視聴し、子どもの入院が与える影響と環境への援助をイメージしておく。
		各コマにおける授業予定	健康障害をもつ子ども・家族への看護① ・健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 急性期にある子どもの身体への影響と状況のアセスメントの視点、看護について理解する 2. 急性期にある子どもと家族の心理状態と必要な援助を理解する	教科書p.195～217 参考資料	基本技術Ⅲ・Ⅳ(ヘルスアセスメント)を復習し、症状ごとの看護、子どもの特徴について考える。
		各コマにおける授業予定	健康障害をもつ子ども・家族への看護② ・急性期にある子どもと家族への看護		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 慢性期にある子どもの状況的危機と発達的危機について理解する 2. 慢性期にある子どもと家族の抱える課題と必要な援助を理解する	教科書p.221～232 参考資料	教科書の事例をふまえ問題点について意見を述べ、レポートにまとめ提出する。
		各コマにおける授業予定	健康障害をもつ子ども・家族への看護③ ・慢性期にある子どもと家族への看護		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 終末期にある子どもの身体徴候と心理状態、死に対する理解について理解する 2. 終末期にある子どもと家族の緩和ケア、QOLを支援する必要性を理解する	教科書p.234～245 GW 参考資料	事例や体験談などから子どもと家族のQOLを支援するケアについて意見を述べる。
		各コマにおける授業予定	健康障害をもつ子ども・家族への看護④ ・終末期にある子どもと家族への看護		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 小児外来の特徴と外来看護の役割を理解する 2. 小児在宅医療の現状と課題、多職種連携と子どもと家族への看護について理解する	教科書p.270～283 参考資料	動画を視聴し、子どもの在宅医療への援助をイメージしておく。
		各コマにおける授業予定	健康障害をもつ子ども・家族への看護⑥ ・外来における子どもと家族への看護 ・在宅における子どもと家族への看護		